

令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第12号(11月)

令和7年11月11日
発表：福島県病害虫防除所

【注意が必要な病害虫】

野菜 花き	■ サツマイモ： サツマイモ基腐病-③ (令和7年11月7日付け防除情報参考)
	■ キュウリ：キュウリ退緑黄化病 (CCYV) -③

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
 ②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で、特に懸念される病害虫
 ③「1 主な病害虫の発生予報」以外で調査の結果、今後、県全域的に発生が多く問題になると判断した病害虫



**病害虫防除所
HPは
←こちらから**



**病害虫に関する
防除対策の
ページは
←こちらから**

1 主な病害虫の発生予報

(1) 野菜花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害 (萎黄病、炭疽病)	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
野菜、 花き 共通	ハスモンヨトウ	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	防除が遅れると被害が大きくなるので発生初期に薬剤防除を徹底する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

2 発生が懸念される病害虫

キュウ リ	<p>■キュウリ退緑黄化病 (CCYV)</p> <p>施設キュウリほ場で、キュウリ退緑黄化病の発生が確認されています。本ウイルスはタバココナジラミにより媒介されるため、発生ほ場においてはコナジラミ類の防除を徹底してください。本病の被害様相や防除対策については、令和6年度特殊報第6号（令和6年度12月24日付け発表）を参照してください。</p> <p>https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/664528.pdf</p>
トマト	<p>■トマト黄化葉巻病 (TYLCV)</p> <p>夏秋トマト栽培ほ場では、コナジラミ類がほ場外に出ないように、栽培終了時に蒸し込み処理を行いましょう。冬春トマト栽培ほ場では、コナジラミ類の防除を徹底し、発病が疑われる株については速やかに抜き取り処理を行ってください。</p> <p>病害虫防除所ホームページでも情報を掲載しているため、下記のURLも参考にしてください。</p> <p>【注意喚起～トマト黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策～】</p> <p>https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf</p> <p>【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 チラシ】</p> <p>https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648953.pdf</p> <p>【トマト黄化葉巻病 (TYLCV) 対策 パンフレット】</p> <p>https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648954.pdf</p>